

復旧・復興対策

新庁舎建設 東日本大震災からの復興のシンボルで、安全安心なまちづくりと防災の拠点として建設を進めていた新庁舎がまもなく完成します。市民の皆さんに利用しやすく、長く愛される行政サービスを提供できるよう5月8日の開庁に向けて、準備を進めています。

藤沼湖周辺の再生・整備 平成25年から県により行われてきた藤沼ダム復旧工事で堤体が完成し、7年ぶりの農業用水供給に向けた試験灌水が1月から行われています。

市民交流センターの整備 昨年3月から建設工事に着手し、現在は地上部の鉄骨が組み上げられ、平成30年3月の竣工を目指し、工事を進めています。市民の交流拠点として、図書館や公民館をはじめ子育て支援機能などを整備します。

住宅等の除染事業 平成24年7月から本格的に着手した市内全域での除染作業は、今月末に全て完了します。

幼児教育・保育の充実と子育て支援の充実

和田地区に民間の認定こども園「ひのひら」が平成29年度のオープンに向けて建設を進めています。また、第三西袋児童クラブ館を開館するなど、子育て環境の整備に取り組んでいます。

学校教育施設の整備・充実

小中一貫教育校の稲田小学校の校舎改築工事と、生徒の増加に対応するための第二中学校の校舎増築工事、長沼小学校校舎の耐震補強工事を平成29年度完成に向け進めています。

また、小中学校10校の屋内運動場耐震補強工事は今月末までに完了します。

図書を活用した学習活動の推進

読書活動を始めきつかけづくりとなる「親子ふれあいブックスタート事業」を進めるとともに、学校図書館の機能充実を図るため、3つの中学校区に学校司書を配置しました。

また、市民交流センター完成時に、既存の書籍も含め20万冊の蔵書を目指し、今年度約2万冊を購入し、市民の読書ニーズへの対応とサービスの充実に努めています。

文化財の保護・活用と文化施設の整備・充実

特撮文化の保存・継承・展示のために、「須賀川特撮アーカイブセンター」の整備に向けて、基本設計に着手しました。

安定した地域医療体制の確保

地域で安心して子どもを産み育てる環境を守るため、4月に開院する公立岩瀬病院の産科婦人科診療棟の整備を支援しました。

防災・防犯対策の強化

環境負荷の低減と長寿命化を図るため、市内全域の防犯灯をLED照明に一括交換して、安全安心の確保に努めています。

企業誘致の促進

雇用の場の確保のため、新規工業団地の開発調査に着手しました。

また、企業誘致アドバイザーとの連携や県内最大の支援制度を「リアルする」ことにより、地域産業の活性化と地元雇用の創出に結びつく優良企業の誘致に努めています。

市街地中心部の再生・活性化

市街地中心部の定住促進のため、「市地域優良賃貸住宅制度」を創設し、住宅供給の促進に努めています。

また、中心市街地の公共施設駐車場の目的外利用の有料化を図り、公共施設の管理やまちづくりを進める上での課題解消と、まちなか全体の回遊性の向上、並びに商業活動の活性化に取り組んでいます。

観光誘客の推進

本市の宝である「須賀川の牡丹園」が発祥250年を迎えました。引き続き大切に管理し、魅力を後世に伝えていきます。

また、ウルトラマン関連事業を継続し、新たな4体のミニコメント設置のほか、ウルトラマンの故郷「M78星雲光の国」との姉妹都市提携事業を紹介するビデオの制作や、地元企業による商品開発を促進するなど、本市の更なるイメージアップに取り組んでいます。

平成28年度主要施策の実施状況

「選ばれるまち 須賀川市」の実現と復興の総仕上げ

市では、須賀川市第7次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2013」や「須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」などに基づいて、活力あるまちづくりに取り組んでいます。平成28年度の主な施策の実施状況について紹介します。



第三西袋児童クラブ館で遊ぶ子どもたち



完成した藤沼ダムの試験灌水

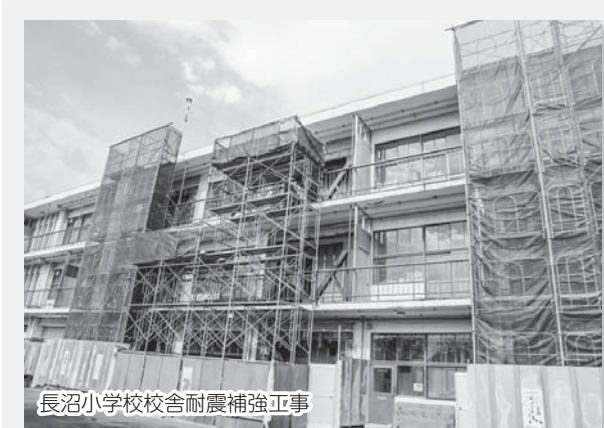
建設が進む市民交流センター



中学校区に配置した学校司書の活動



公立岩瀬病院と新設の産科婦人科診療棟



長沼小学校校舎耐震補強工事



須賀川市新庁舎がまもなく完成



公立岩瀬病院前に設置したウルトラの母像

©円谷プロ